



# キャベツ (夏秋まき編)

2013年直売所出荷を応援！こだわりの栽培ポイント

おいしさと品ぞろえで  
収益アップ！

キャベツ (育苗)  
耕種基準

畝幅 (cm)	60~120
条数 (条)	1~2
株間 (cm)	30~40

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

キャベツ担当  
城田 良裕

## 栽培クローズアップ

### 播種

キャベツの発芽適温は15~20℃です。30℃付近の高温では発芽不良や苗の不着ろいが発生しやすくなります。特に夏まきでは発芽するまでの1~2日程度、セルトレイを直射日光の当たらない倉庫などで管理し発芽をそろえます。その後は、日光が十分当たる風通しのよい場所へ移動します。露地育苗の場合、発芽までの期間は遮光資材などで温度上昇を防ぎます。



↑特に夏まきでは直射日光が当たるとのを防ぎ、発芽をそろえるのが上作のポイント。

### 育苗

茎が太く、葉の厚いがつちりした健苗を育成するため、やや乾かしぎみの灌水管理を行います。午前中に灌水を済ませ、夕方には培土表面が乾いている状態が理想的です。また育苗トレイを地面から30cm以上浮かせると、余分な水分が抜けやすくなり軟弱徒長を防ぎます。



↑キャベツの苗。茎が太くがつちりとした健苗を育てる。

定植の5~10日前には外気に当て、しまった苗に仕上げます。

### 肥培管理

施肥量は水田の後作などでは、10㎡当たりチッソ成分で200~250gが目安になりますが、前作の残留肥料や土壌の肥沃度により調整します。定植後は灌水チューブなどを利用して十分水をやり、苗の活着に努めます。

### 品種別の肥培管理のポイント

「初秋」「彩峰」「コーラス」「星岬」

栽培期間が短いため、初期生育をスムーズに進めることが収量を上げるポイントとなります。そのため排水のよい肥沃な畑を選択します。

全施肥量の3分の2を元肥とし、定植後1週間後と2週間後を目安に、残りを追肥として施します。初期生育を促進するため、速効性のリン酸系肥料を使用します。

「彩音」「輝岬」

生育期間が長いいため、より肥効の持続しやすいやや重めの土壌での栽培が適します。

全施肥量の2分の1を元肥とし、生育を見ながら2~3回に分けて追肥を施します。両品種とも吸肥力が強く生育が旺盛な品種ですので、全体のチッ

ソ量はやや少なめ（他品種のおよそ1/2割減）にすることが上作のポイントになります。

「YR春空」「春波」

追肥する時期がポイントです。「春波」なら2月上旬中旬から、「YR春空」なら3月上旬ごろから肥効が高まるように、その少し前に追肥を施します。また、肥料の遅効きによる球腐敗・裂球を避けるため、追肥では速効性のもので使用します。

### 栽植密度

株間が広いほど通気性がよくなり、病虫害の軽減及び薬剤散布回数の低減に効果的です。また球肥大を促進させる効果があり、そろい性・在圃性も向上します。従って、やや広めの33~35cm程度の株間での植え付けをおすすめします。



↑品種ごとに合わせた適切な肥培管理で品質の高いキャベツを収穫。



↑株間は広めに33~35cm程度とすると通気性がよくなり病害も防ぐことができる。



今回は、味が濃くしっかりとした食感の寒玉種とやわらかさとみずみずしい味わいの良質種を秋から春まで出荷するリレー栽培に向く品種をご紹介します。

良質系のみずみずしさを味わえるパスタと、寒玉系の肉質を生かして煮込んだスープ。

おいしい寒玉リレー

10～11月どりの「初秋」は、やわらかい肉質で歯切れがよく、食感が特にすぐれる「おいしいキャベツ」の定番種です。11月どりの「彩峰」は「初秋」のサクサクとした食感を受け継いだ食味にもすぐれる早生種です。「初秋」よりも作りやすく病気に強いいため、より安心して栽培できます。

12月～4月どりなら「彩音」がおすすめ。食味が特にすぐれる中晩生種です。寒さに当たるとより糖度が増します。食感は通常の寒玉キャベツよりもやわらかくジューシーです。そのため加熱調理だけでなく生食用でもおいしい、幅広い用途に向く品種です。5月どりの「YR春空」は寒玉種の糖度と、良質種の歯切れのよさを兼ね備えた秋まき中早生種です。食味・食感を生かし、大きめの短冊状に切り、浅漬けて食べていただくのもおすすめです。



←味が濃く肉質のしっかりとした寒玉種（写真は「彩音」）。

新鮮な良質系リレー

10～11月どりの「コーラス」は肉厚でサクサク感が楽しめ、しかもやわらかくジューシーという独特の食感をもち、秋には特に甘みが増す「おいしい」キャベツです。サラダや浅漬けに最適です。新鮮さをアピールできるさわやかな鮮緑色、球形も丸～甲高球に仕上がるため店頭でも目を引き、差別化販売に有利です。

11～12月どりの「星岬」は鮮濃緑色でアントシアン色素の発生が少ない良質性にすぐれる中早生種です。早どりに適するので、良質系の出荷りにくい秋口に新鮮なキャベツを出荷できます。

1～3月どりには「輝岬」が最適です。みずみずしい鮮緑色、低温期のアントシアン色素の発生が少ない品質にすぐれる中生種です。玉のテリツヤがよく、寒さによる傷みが少ないため、厳寒期でも高品質出荷が可能です。4月どりには「春波」がおすすめ。やわらかくみずみずしい食感を持ち、見た目にもさわやかで色ツヤのよい「春キャベツ」です。



←葉のやわらかさとみずみずしい味わいが特長の良質系（写真は「春波」）。

包装規格、内容量、価格は2013年10月末まで有効です。



タネが大きくまきやすい「ペレット種子」がおすすめ！

少量多品目の直売所出荷向けの栽培では手まきする機会が多く、「キャベツのタネは小さい・見えにくい」という声をよく聞きます。そこで、タネまきしやすいペレット種子をおすすめします。今回、紹介した品種では「初秋」「彩音」「コーラス」「春波」がペレット種子の扱いがあります。セルトレイで使いやすい150粒入りです。播種後は十分水を吸うようにしっかり灌水してください。それ以降の管理は裸種子と同様です。ぜひお試しください。



↑キャベツ「コーラス」ペレット種子。150粒入り。



↑タネが大きくまきやすく、白色で土の上でもわかりやすい。



# 2013年直売所出荷を応援！こだわりの栽培ポイント

## ブロッコリー・カリフラワー！

### （夏まき・春まき）

ブロッコリー（育苗）  
耕種基準

畝幅 (cm)	60～135
条数 (条)	1～2
株間 (cm)	40～50

カリフラワー（育苗）  
耕種基準

畝幅 (cm)	60～135
条数 (条)	1～2
株間 (cm)	40～50

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

ブロッコリー・  
カリフラワー担当  
こまつ たかゆき  
小松 孝行

ブロッコリーやカリフラワーはおいしく、お弁当の彩りにも重宝する人気の野菜です。上手に作りこなして、ぜひ出荷品目の一つに加えてほしいと思います。

## 栽培クローズアップ

### 土づくりと畝の準備

元肥はチッソ・リン酸・カリⅡ 8…8…8の化成肥料であれば、10㎡当たり2・5～3kgを目安に施します。ブロッコリーは比較的過湿に弱いので、排水の悪い畑では根が張れずしっかりと生育しません。その場合は土を



↑ブロッコリーは過湿に弱いので、排水性を高めるため25cmくらいの高畝で栽培する。(写真は生育途中のブロッコリー)



↑追肥は出蕾する少し前に行い肥大を促す。(写真：ブロッコリーの出蕾始め)



↑側枝花蕾を収穫する場合は、頂花蕾収穫後1～2回施肥して肥大させる。

深く耕しきたい層を崩すことと、高めの畝にして排水をよくすることが大切です。畝をつくり、条間50cmの2条、株間はブロッコリー、カリフラワーとも、40～50cmを標準とし定植します。

### 追肥

定植後10～15日後に一度追肥をし、初期の生育を促します。その後は出蕾する少し前に追肥をし、花蕾の肥大を促します。チッソ・リン酸・カリⅡ 8…8…8の化成肥料であれば、1株当たり10gを目安に施用します。11～12月収穫の場合は、定植後65～70日程度で収穫となるので、定植後45～50日目に追肥します。1～3月収穫の場合は、12月に一度追肥をして肥効を落とさないようにし、さらに、1～2月に1～

2回追肥し、花蕾の肥大を促します。この時期は温度が低く肥料の効きが遅いので、早めの追肥を心掛けます。また、側枝を収穫の場合は、頂花蕾収穫後、1～2回追肥して側枝の肥大を促しましょう。

### 中耕

ブロッコリーは過湿に弱いので、生育期間中に何度か中耕を行い、畝の中に空気がいきわたる状態を保つことが上作のポイントです。追肥と同時に行うと肥料の効きもよくなります。特に雨後などは過湿になりやすいため、土が練らなくなったらできるだけ早く中耕し、畝を乾かすことが重要です。

## 出荷のヒント

ブロッコリーの  
大玉出荷には、  
頂花蕾どり専用種が  
おすすめ！

「トップギア」「キャッスル」「メガドーム」は頂花蕾収穫専用品種で、よく太り重量感のある花蕾が収穫できます。10～11月収穫を「トップギア」、11～12月収穫を「キャッスル」、1～2月収穫を「メガドーム」と使い分けてください。

## 資材の活用

～暑さ対策に「タキイ涼感ホワイト」、  
寒さ対策には「ベタロン」～

育苗時期にあたる7～8月は非常に暑く、その対策が重要です。気温が高くなる9～15時の間は「タキイ涼感ホワイト」などの遮光ネットを被覆し温度上昇を抑え、発芽不良、葉先焼けなどの障害を防ぎます。

また、1～3月収穫の厳寒期の栽培では「ベタロン」など通気性がある保温資材でトンネルすると、寒さによる傷みを軽減できるでしょう。



↑赤外線を反射することで遮熱性を発揮する「タキイ涼感ホワイト」。夏季の暑さ対策に。

早く出して  
短期で勝負するなら…

ブロッコリー

「エルデ」は収穫までの期間が早く暑さに強いので、10月上旬から出荷できます。この時期は産地が冷涼地から一般地へ移る端境期にあたり、市場が品薄になりやすい時期です。店頭で新鮮なブロッコリーが置いてあれば売り切れ必至です。

味にこだわって  
作り込むなら…

ブロッコリー

「グリーンビューティ」は甘みがあり食感がよく、おいしい品種です。特に12月～2月の収穫では甘みがのり、よりおいしくなります。側枝も収穫できるので、保温資材をうまく活用して2月ごろまで収穫してください。

作りやすさで  
選ぶなら…

ブロッコリー

「ハイツSP」は根の張りがよくしっかりと株ができるので、10～11月いっぱいまで安定して収穫できる適応性の高い品種です。また、側枝を利用すれば12月まで収穫できます。「グリーンパラソル」は11～12月を中心に出荷でき、草勢が強めで栽培が安定します。

カリフラワー

「スノークラウン」は生育旺盛で作りやすいカリフラワーです。根の張りがよく、多少の過乾湿ならば大きな障害を受けることなく生育します。

私の  
菜園

私の菜園

細長い形がユニークで  
調理しやすい  
「グリーンボイス」

「グリーンボイス」は側枝の茎を食べる茎ブロッコリーです。普通のブロッコリーと違い、茎が長いので調理しやすく、歯切れがよく甘みがあるのが特長です。また、側枝が連続して発生するので長く楽しめます。



↑プランター栽培もできる。



↑味のよいブロッコリーを使っておいしい料理を楽しむ。（写真はブロッコリーとチキンのシチュー）



↑「グリーンパラソル」は草勢が強めで安定した栽培ができる。（写真は生育途中）



〈名品種列伝〉  
株のそろい、花蕾の肥大性を兼ね備えた  
「グリーンフェイス」

平成7年第46回全日本野菜原種審査会で農林水産大臣賞を受賞した「グリーンフェイス」（1993年発表）は、株のそろいと花蕾の肥大が抜群の品種でした。当時は花蕾の赤い着色がないアントシアニン系と呼ばれる品種が産地に普及し始めたころで、そういった品種は株が弱く花蕾の肥大がおとなしいものが多くありました。その中で「グリーンフェイス」は肥大性と栽培安定性が評価され受賞に至りました。

12月～1月に安定して収穫できるという安心感は、直売所用にもう一度見直してみてもいいかもしれません。



↑今こそ価値を見直したい12月～1月に安定した収穫を誇る「グリーンフェイス」。

栽培



Q 台風など強い風が吹くと株が倒れてしまいます。対策はありますか？

A 株が倒れたままになっていると、地面についた部分から株が腐ったり、花蕾の茎が曲がったりします。強い風が予想される時は、株元に土寄せし株が倒れないようにします。普段から中耕の際に土寄せしておく、株元から不定根と呼ばれる根が発生し倒れにくくなります。また、小面積であれば支柱とひもを使い誘引するのもよいでしょう。倒れてしまった場合はすぐに株を起し、株元に土を寄せてください。



2013年直売所出荷を応援！こだわりの栽培ポイント

# 中国野菜

暑さに強い品目がいっぱい！  
夏場の青物にぜひとり入れたい。

チンゲンサイ  
耕種基準

畝幅 (cm)	100~120
条数 (条)	3~4
株間 (cm)	10~20

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

編集部

## 栽培クローズアップ

### 直まきと移植栽培

栽培方法には直まきと移植栽培があります。直まきの方が根張りがよく、生育も早いので栽培しやすいのですが、幼苗期に虫害や乾燥によって生育のムラが出やすいという欠点があります。移植栽培の育苗は、雨よけハウスで行うのが好ましい方法です。ハウスがなければ、露地で「サンサンネット」などのトンネルを被覆して育苗を行います。

### がっちりとした苗を作る

苗半作といわれるように育苗は重要で、特に高温期栽培では強健な苗を作



↑育苗トレイは日光がよく当たる風通しのよい場所で管理する。(写真：育苗中のチンゲンサイ)

ります。軟弱徒長した苗を高温、乾燥条件で定植すると、活着が遅れてその後の生育に大きなダメージを与えます。育苗で重要な要素は、土壌水分、光、風通し、気温、肥料でこの5点に注意します。

### 土壌水分

午前中にたっぷりと灌水を行い、夕方には表面が少し乾く程度にします。培土に苔が生えるようであれば過湿状態であり、徒長の原因となります。

### 光と風通し

育苗は日光がよく当たり、風通しのよい場所を選びます。トレイは地面から30cm以上空間をとり、扇風機や園芸用のファンを用いて通風を図ります。

### 気温

極高温時には日中に寒冷紗などを掛け、気温を下げます。ただし、朝夕は寒冷紗を外し、苗に十分光を当てます。

### 肥料

育苗後半の肥料が切れる前に液肥を与えます。肥料が切れると本葉が黄化し、病害の発生や活着不良の原因となります。

### 若苗を定植する

根が張って、苗を抜いても根鉢が崩れないようであれば、定植適期の若苗です。根が回ってしまった老化苗を定植すると、活着不良を起こしやすくなります。

定植後は十分に灌水し、苗が活着するまでは乾燥に注意します。マルチを



↑定植する苗は本葉3~4枚程度を目安とした若苗とする。(写真：プランター栽培ツルムラサキの定植)

←マルチを利用することで土壌水分を適湿に保つ。(写真：ツルムラサキ生育途中)



利用すると土壌水分の乾湿の差が少なくなり、降雨時の土のはね返りが少なく病害が軽減されます。夏季栽培では白黒マルチが地温を低く抑える効果があるのでおすすめです。

### 栽植密度

栽植密度はチンゲンサイでは条間15cm×株間15cm、エンサイでは条間30cm×株間30cmを目安とします。

また、コウサイタイでは長期間にわたり栽培する場合は30~40cmと株間を少し広めにし、大株に仕立てます。遅まきする場合は株間を20cmほどつめて短期収穫にします。



↑チンゲンサイは株間15cm程度に植え付ける。

中国野菜は、中華料理以外でも、お浸しや味噌汁の具など、今やすっかり家庭料理でもおなじみで、直売所の品ぞろえにも欠かせない品目だといえます。

### 中国野菜の代表格 「チンゲンサイ」

夏秋どりが一番作りやすいチンゲンサイ。中でも「**長陽**」は生育旺盛で耐暑性にすぐれる早生種です。節間伸張が少ないので夏場でも徒長しにくく、草姿は立性、コンパクトで尻張りがよいのでボリューム感のある株姿で収穫できます。収穫の目安は草丈20cm、株元が5cm程度です。袋詰めは外葉を落とし、1袋に2株ずつが目安です。



←コンパクトで株張りよくボリューム感のある作物が収穫できる「長陽」。

### 彩りの美しさで目新しさを アピール「コウサイタイ」

花茎の部分が赤くなるナバナの仲間です。油炒めやお浸しなどが一般的で、花茎の赤紫色は熱をとおすと綺麗な鮮緑色に変わります。また、若どりした花茎はサラダなどに入れると赤紫色をそのまま楽しむことができ、普通のナバナとは違った色や香りを楽しめます。



↑ナバナの仲間である赤くなる花茎が個性的なコウサイタイ。

### くうしんさい 空心菜とも呼ばれ 炒め物に最適な「エンサイ」

別名の「空心菜」の名の通り、茎が中空でその若茎と葉を一緒に収穫します。熱を加えると独特の滑りが出て炒め物に最適です。また耐暑性・耐湿性にすぐれ、夏場の葉物が作りにくい時期に大変重宝する野菜の一つです。さらにビタミン、ミネラルを豊富に含み夏バテ防止にも効果的です。収穫は草丈30cmのころ、株元の5～6節を残して、やわらかい部分を収穫します。出荷規格の目安はつる先4～5節くらいを含む若い茎葉を25cm程度切って収穫します。摘み取った下からわき芽が出てくるので、繰り返し収穫できます。



↑葉とともに三角形で中空の茎を利用する「エンサイ」。

栽培



Q 「エンサイ」を長期収穫すると、だんだん茎がかたくなってしまいます。

A 「エンサイ」は元来水辺に生育することから、水を非常に好み、湿地で多く栽培されています。乾燥条件での栽培では、茎は太くかたくなり品質が劣ります。特に、夏場は乾燥しやすいため、表面が乾燥しないよう十分な灌水を行い、細くやわらかい茎の収穫、出荷を心掛けましょう。

### 資材の活用

#### 有機質主体の土づくりにおすすめな 「バイオダルマ」

生育期間が短い中国野菜などの軟弱野菜は、施肥設計が速効性肥料の元肥主体となりがちです。初期生育を促す意味では効果的ですが、総合的な土づくりや、特にエンサイやツルムラサキなどの長期栽培を考えると、地力の向上は必要不可欠になります。

そのためにも、堆肥はぜひ利用したいものです。牛ふんや鶏ふん、あるいはもみ殻やパーク堆肥などいろいろなものがあります。タキイにも有効微生物（ダルマ菌）が豊富に含まれており、利用しやすい「**バイオダルマ**」があり、ぜひおすすめいたします。



←活力ある土づくりにおすすめの菌体特殊肥料「バイオダルマ」。



2013年直売所出荷を応援！こだわりの栽培ポイント

# ハウレンソウ

ビタミン・ミネラルたっぷり！  
寒じめ栽培もおすすめ！

## 栽培クローズアップ

### 排水・保水のよい土づくり

ハウレンソウは直根性で過乾・過湿に弱いため、耕土が深く膨軟で排水・保水性のよい圃場が適します。そのため、計画的に完熟堆肥を施用し、有機質に富んだ通気性のよい土づくりが大切です。また、地下水位の高い圃場では高畝にして、排水できるようにしておきます。

### 発芽をそろえる

発芽をそろえることは、その後の順調な生育やそろいのよい収穫物につながり、腕の見せ所です。

発芽をそろえるポイントは発芽まで適湿を保つことです。そのため、まず畝作りは圃場が適湿の状態で行います。圃場が乾燥している場合は予め灌水を行ってから整地するとよいでしょう。

次に乾きムラが出ないよう凹凸がない播種床をつくり、播種後は均一に沈ませます。播種後の灌水は十分にを行い、表面が乾くようであれば適宜灌水し、

発芽まで適湿を保ちます。1割程度、芽が出始めたところに、再び軽く灌水を行い、全体の発芽をそろえてください。



→播種床を適湿に保ち発芽をそろえることが、その後の順調な生育につながる。

### 適切な肥培管理

色ツヤのよいハウレンソウを収穫するには生育後半の肥切れに注意します。

施肥は年内収穫では10㎡当たりチッソ成分で200g、生育期間が長い1ヶ月2月どりでは250g程度が目安ですが、土壌の肥沃度で適宜調節します。地力が低い圃場では、本葉が4枚展開したところに10㎡当たりチッソ成分で30

g程度の速効性化成肥料を条間に追肥し、生育を順調に進めてください。  
**被覆資材の活用**

寒さで葉の傷みが出やすくなる低温期の栽培では、被覆資材を上手に活用し、良品出荷につなげます。通気性のよい不織布のトンネルやベタがけは風や霜による葉の傷みが防げ、適度に通気するため、トンネルの開閉もいらず省力的です。



→ハウレンソウの生育に効果が高い青パオバオなどの不織布を利用して、風霜による葉の傷みを防ぎ適度な通気も確保する。

ハウレンソウ(直まき) 耕種基準

畝幅(cm)	110~140
条数(条)	4~6
株間(cm)	3~7

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

ハウレンソウ担当

はやし ひろ のぶ  
**林 宏信**



## Q 大雨でハウレンソウの葉が黄化してきました。対策はありますか？

**A** 葉の黄化は土壌の過湿により根傷みが起こり、根からの養分吸収が妨げられていることが一番の原因です。まずは条間を中耕することで、土壌の通気性を改善し、同時に速効性の化成肥料を追肥しておきます。さらにリン酸をより吸収しやすとした「亜リン酸」を含んだ葉面散布剤「ホストマト」1000~2000倍で葉面散布すると、根の発育が促進され効果的です。



←トマトだけじゃない。ハウレンソウの根の発育にも効果を発揮する「ホストマト」がおすすめです。

出荷期間を延ばすなら…

在圃性がすぐれる「**エリナ**」がよいでしょう。生育は比較的じっくりしており、長い期間収穫でき、少量ずつ出荷したい方に最適です。葉色が濃く、葉面が非常にスムーズなため、荷姿がとても美しい品種です。



↑在圃性にすぐれ葉色が濃く葉面の美しさが魅力の「エリナ」。



早く出して  
短期で勝負するなら…

収量性のある「**アクセラ**」がおすすめです。葉が大きく、株張りがよいので、ボリュームある荷姿が目立ちます。生育は旺盛で、初心者の方にも栽培しやすい品種です。適作型は秋～年内どり、春どりで、低温期の栽培では秋冬どりの定番品種「**オーライ**」「**トライ**」をおすすめします。



←ボリュームのある株がたくさん収穫できる「アクセラ」。

味にこだわって  
作り込むなら…

昨年新発表しました「**弁天丸**」をぜひどうぞ！アクが少なく、低温期の栽培では特に葉柄の甘みが増すため、冬どりでおいしいホウレンソウが出荷できます。食味でホウレンソウの旬をアピールしてはいかがでしょうか。また、葉柄が折れにくく収穫調製も簡単です。直売出荷におすすめしたい品種です。



←特に冬どりにて甘みが増し、ますます食味の上がる「弁天丸」。



←「弁天丸」は、葉軸が折れにくく収穫調製作業が容易。

資材の活用

ホウレンソウは発芽までの灌水管理が大変！

そんな時に、タキイの「**アイスマルチ**」が威力を発揮します。使い方は簡単！播種後たっぷり灌水した後、発芽するまで「アイスマルチ」でベタがけするだけ。土壤水分を保ち、発芽までの灌水管理が不要で、多品目で管理が忙しい方や小まめに播種したい方にはうってつけです。地温抑制効果が高いため、比較的地温が高い9～10月上旬の播種におすすめです。注意点は遮光率が高い資材のため、全体の1～2割程度が発芽した段階で、早めにはぐこと。はいだ後は軽く灌水し発芽をそろえましょう。また緑がめくれないようしっかりピンなどで押さえておくことも大切です。

栽培のポイント

ホウレンソウべと病抵抗性品種をより長く活用するために…

ホウレンソウのべと病はレース分化が起こりやすいため、抵抗性品種といえども、登録農薬による早期防除に努め、栽培管理に留意するようにします。

出荷のヒント

ハウスで挑戦！ 寒じめ栽培

寒じめ栽培は寒さに耐えるため、糖を蓄積する特性を利用して、あま～いホウレンソウを栽培する方法です。特に冬場が寒い地域では「**弁天丸**」を使った寒じめ栽培に挑戦してはいかがでしょうか。葉軸を生でかじってみるとその甘さに驚きます。

栽培はハウスを利用し、平均気温が5℃以下になる時期までに草丈20cm以上まで、通常の温度管理で生育を進めておきます。その後、終日サイドを開放し低温にさらしてください。糖度が上昇するには2～3週間程度かかりますので、十分低温にあて、甘みが増したものを適宜収穫していきます。



↑低温にさらすことにより、甘みを増す寒じめ栽培。





## 2013年直売所出荷を応援！こだわりの栽培ポイント

# コマツナ

葉物の少ない夏にもぐんぐん育つ！  
カルシウム含量が高い！

コマツナ(直まき)  
耕種基準

畝幅(cm)	100~150
条数(条)	4~5
株間(cm)	3~5

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

コマツナ担当  
新井 真琴

コマツナは、生育期間が短く周年栽培が可能で、連作に強いことから、作りやすい野菜の代表選手です。特に、葉物が不足する夏場では、耐暑性のあるコマツナは貴重な葉物野菜といえます。新鮮とれたてのコマツナを並べて、活気のある直売所をアピールしましょう。

今回は、「栽培面積、出荷期間、作りやすさ、おいしさ」の4つのポイントで、品種を紹介します。

### 栽培クローズアップ

#### 発芽をそろえるためのコツ

短期間で収穫期を迎える軟弱野菜は、一斉発芽が栽培を安定させるポイントです。特に、畑が乾燥しやすい夏どりの栽培は、土壌を適湿に保つことが重要です。整地前に乾いているようであれば、十分に灌水を行ったうえで、整地播種を行います。

また、ハウス栽培を行う際には、播種前から「タキイホワイト」などの遮光資材を展開することで、地温・気温の上昇を抑えるとともに土壌水分の変



↑コマツナなどの軟弱野菜の均一で安定した発芽につながる「タキイホワイト」。(写真はハウレンソウでの使用例)



↑短期間で収穫するコマツナは、発芽をそろえることがその後の栽培を安定させるポイント。

化を少なくします。子葉が展開して発芽がそろった後には、遮光資材を外し軟弱徒長を防ぎます。

#### 害虫対策のポイント

「サンサンネット」などの防虫ネットを使うのが最も効果的です。ネットは播種直後から設置し、裾をしっかりと土に埋めることで、虫の侵入を防ぎましょう。ベタ掛けでは害虫がネット越しに産卵してしまうため、トンネル被覆をおすすめします。また、圃場のまわりの雑草は発生源となるため、雑草防除をしっかりとし環境整備に努めます。



↑「サンサンネット」害虫防除効果の比較。(左:「サンサンネット」未使用 右:使用)



↑害虫防除には「サンサンネット」などの防虫ネットを使ったトンネル栽培が最適。

#### 栽培 Q&A

**Q** 夏場でも葉が萎れにくいコマツナを出荷するコツを教えてください。

**A** 高温期の軟弱徒長を防ぐには、株間と条間を広めにとって、葉柄が太くがっちりした株に仕上げます。株間5cm、条間15cmを目安に播種するとよいでしょう。また、収穫の3~4日前には掛けていた防虫ネットを外すことで、株張りや葉色を充実させます。



←夏場の軟弱徒長を防ぎ、葉柄の太いがっちりとした株に仕上げる。

一度に播種をして、  
長期間出荷するなら…

「**菜々音**」をおすすめします。じっくりと生育して在圃性にすぐれ、収穫適期幅が広いことが特長です。1回に広い面積にまいても、取り遅れの心配が少なく、長い間収穫が可能です。また、葉色は濃く肉厚で、太軸に仕上がるため、売り場で目立つ美しい荷姿となります。白さび病、萎黄病に強い耐病性をもち、露地栽培でも作りやすい品種です。



↑ 在圃性にすぐれ出荷適期の長い「菜々音」。

定期的に播種して、  
連続的に出荷するなら…

「**菜々美**」が適します。中位な生育スピードで、大葉で株張りよく、収量性にすぐれます。また、白さび病、萎黄病に強い耐病性があり、春から秋まで幅広く栽培が可能です。時期によっても異なりますが、5～7日ごとに播種日をずらして栽培することが、連続出荷のポイントです。



← 段まきすること、春から秋まで連続的に出荷できる「菜々美」。

短期間でおいしいコマツナを出荷するなら…

「**夏楽天**」がおすすめです。生育が早く、やわらかく仕上がり、コマツナ本来の風味があって歯切れよくおいしい品種です。特に秋冬どりは、食味のよさがより一層際立ちます。



↑ 歯切れよくすっきりとした味でおいしい「夏楽天」。秋冬どりが特におすすめ。

出荷のヒント

品種の使い分け

今回ご紹介した品種を組み合わせ、1年間を通して出荷が可能なローテーションをご提案します。

これから8月までの夏にかけては、高温期でもじっくり生育し耐暑性にすぐれる「**菜々音**」をまきましょう。9月～10月中旬の秋どりは、病気に強く安定した生育で作りやすい「**菜々美**」がよいでしょう。10月中旬以降の冬どりの作型では、低温伸長性の高い「**夏楽天**」が適します。下表の播種期による使い分けの表を参考にしてください。

〈表〉コマツナ品種 使い分け

月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
播種期	菜々美			菜々音			菜々美			夏楽天		

いろいろな調理方法の提案

暑い夏にぴったりな  
コマツナスムージー



材料



コマツナ  
2株



バナナ  
1本



キウイ  
1個



コマツナは、ビタミンAやC、カルシウム、鉄分などのミネラルを多く含む緑黄色野菜で、あくが少なくクセのない食味から、煮物や炒めもの、漬物のほかにも、料理の用途が広がっています。

通常の収穫サイズである25cmよりも早めに収穫すると、やわらかい食感からサラダなどの生食に適します。

また、大株のコマツナは、緑色の色合いを生かした料理に向きます。ミキサーにかけスープやポタージュ、野菜ジュースにしたり、バナナなどの果物と混ぜて今流行のスムージーを作ったりするのもよいでしょう。また、ケーキやお菓子の材料に混ぜると見た目にもきれいで、おいしく健康的に食べられます。

売場に並べる際に、調理方法も合わせて掲示すると、注目度が上がりますので、ぜひ試してみてください。



↑葉ネギの根がしっかりと張れるよう膨軟で排水性・保水性のよい圃場づくりをする。



↑播種7日目の葉ネギ。もみ殻をまくことで急激な土の乾きを抑えることができる。

## 栽培クローズアップ

### 基本は土づくり

葉ネギは比較的、土質を選ばないとはいえ、根がしっかりと張れるような膨軟な土にすることが大切です。有機物を施し排水性、保水性、通気性のすぐれた土壌を準備します。

### 小ネギの直播栽培(雨よけハウスなど)

播種は、条まきすると管理が容易です。手まきあるいは手押し簡易的な播種機を用い、条間約20cm、まき幅10cm程度で、1m当たり約150〜200粒を目安に播種します。

栽培は灌水管理が最も重要で、生育前半はこまめで十分な灌水により適湿を保ち、後半は灌水量を減らしてかた

# 葉ネギ

家庭菜園で作られている野菜ランキング  
第5位！薬味として欠かせない

2013年直売所出荷を応援！こだわりの栽培ポイント

く仕上げ、店もちを向上させます。

草丈50〜55cm程度を目指すなら、夏季は60〜70日、冬季は120〜130日ほどの栽培期間となります。高温期の収穫は、できるだけ鮮度を保つために、朝の早いうちに行うのがよいでしょう。

### 中ネギの移植栽培

慣行の地床育苗では、条間15cm程度の条まきとすると密度がそろい、除草や苗とりなどがしやすくなります。本葉1枚までは生育むらを防ぐため、水を切らさないようにしますが、もみ殻などで床面を覆ってやると急激な乾きを防止できます。

また近年は、セルトレイ(200穴程度)などによる育苗も多く行われています。最終的な収穫目標のサイズによって播種量や圃場での栽植密度を決

定します。例えば、中ネギサイズを目標にするなら1穴に4粒程度、小ネギサイズなら10粒程度播種します。育苗日数は夏季で40日程度、冬季で50〜60日程度で、株間15〜20cm程度で定植します。

### ネギ耕種基準

畝幅 (cm)	90 (葉ネギ・直播) 70~90 (根ネギ・育苗)
条数 (条)	4 (葉ネギ・直播) 1 (根ネギ・育苗)
株間 (cm)	1 (葉ネギ・直播) 3~4 (根ネギ・育苗)

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

ネギ担当

宇野 浩克

### 私の食卓

#### 私の食卓

### 料理のアクセント、彩りと香りがよい 芽ネギ専用の「かおり芽ねぎ」

「芽ネギ」とは、ネギのスプラウト(新芽)で、7〜8cm程度で出荷するものです。播種後、3〜4週間で出荷が可能です。吸い物や刺身のつま、和風サラダ、また肉で巻いたり、お寿司のネタにしたりと、さまざまな用途で使えます。「かおり芽ねぎ」は、適度な香りと辛みがあり、シャキシャキした食感が楽しめます。強健で作りやすい品種ですので、新たな商材としていかがでしょうか。



↑新芽を収穫しシャキシャキとした食感が楽しめる「かおり芽ねぎ」。

### 栽培



### Q 直播栽培で発芽がうまくそろいません。

**A** 播種床がデコボコしていませんか？ 床面が波打っていると、低い所には水がたまりやすく、また抜けてくくなり、逆に高い所は乾きやすくなり発芽が悪くなります。まずは、均平な床面を作ることを心掛けます。また、ネギの発芽適温は20℃前後です。特に高温時期の播種は、乾きやすくなることもあり、発芽がそろいにくく注意が必要です。「芽出たいシート」など保湿と地温の上昇を抑える資材を利用するのが効果的でしょう。

↓播種床の床面を均平にすることが播種をそろえるポイント。



↑保湿と地温の上昇を抑える「芽出たいシート」を使えば高温期の播種でもより安心。





薬味としての利用も多い葉ネギは風味が命。食味のよいネギの品種選定が望まれる。

ひとことで葉ネギといっても、人によってイメージされる大きさが異なるかもしれません。例えば、冬の鍋物などに使われる「九条太」の大株や、ラーメンやうどんの薬味用としての小～中ネギをイメージされる人もおられるでしょう。直売所出荷を目指す時も、最終的にどのサイズの葉ネギを出荷したいかによって、それに適した品種を選ぶ必要があります。そして、葉ネギは料理での使われ方から、風味が命ともいえるかと思います。今回は、それぞれの収穫サイズに適するタキイの葉ネギで風味のすぐれる品種を紹介します。

秋冬の鍋物やすき焼き用の大株には芳香に富んだ「九条太」

京都の伝統野菜である九条ネギの冬季の大株は、寒さにあって特有のぬめりと甘みが増し、鍋物やすき焼きに最高です。「九条太」を使っ

小～中ネギには風味のすぐれる「小春」と「小夏」を季節で使い分け

「小春」は葉質がやわらかく、九条ネギの風味をもつF<sub>1</sub>品種です。冬場の寒さにも強く、秋～翌春までの栽培が最も適します。「小夏」はネギが本来あまり得意でない夏の暑さに強く、耐暑性のあるF<sub>1</sub>品種です。夏でも健全に育ちやすく、暑い夏に食欲が増すような風味のよい薬味として最適の品種です。両種とも、細めの葉で小ネギから中ネギサイズでの出荷が適します。夏どりは「小夏」、その他の時期の収穫には「小春」と使い分けることで1年を通じて風味のよい葉ネギを出荷できます。

新発表の「京千緑」は、小～中ネギに最適の多収穫！

本年新発表の「京千緑」（品種解説は秋号予定）は、生育が早く旺盛で、株の太りがよい多収穫です。耐暑・耐寒性が高く低温伸長性もすぐれるため、秋～春どりで収量性の高さを生かした中ネギ栽培が最も適します。また、生育の早さを生かした小ネギの周年栽培にも適します。また、葉は濃緑、立性で荷姿がよく、葉折れや葉先枯れの発生が少ない美しいネギです。作りやすくてきれいな「京千緑」を一度お試しください。



↑秋～春どりの中ネギ栽培に最も適する「京千緑」。



↑九条ネギはすき焼きや鍋物にぴったり！（写真は「九条ネギと牛肉のすき焼き風炒め」）。

「九条太」を使った干しネギ栽培とは

「九条ネギ」は高温期には株元が太って、休眠し不良環境に対応します。その特性を利用して育苗が困難な夏季の定植に干しネギを使います。

- ① 秋まき 8～9月まきではしっかりした苗となりますが、春の仮植時に摘蕾が必要になります。10月まきで抽苔しない播種設定も可能です。
- ② 春仮植 3～4月に仮植して育苗しますが、夏どりの葉ネギとして利用も可能です。
- ③ 夏掘り起こし・乾燥 7月末～8月上旬に掘り上げ、2～3日地干した後、葉を束ねて日陰の通風のよい所で2週間程度はざかけし、干し上げます。
- ④ 盆過ぎ定植 定植時、15cm程度に葉を切りつめ、枯れ葉を除いて定植します。高温期なので定植直後の灌水を控え、新根が出始めた数日後に灌水します。
- ⑤ 10月～3月収穫 定植後は速やかに萌芽し、秋口から収穫できます。冬季には分けつして大株となり、やわらかくおいしい九条ネギが多収穫できます。



↑干し苗の状態。



↑干し苗の植え付け。



## 栽培クローズアップ

畑の準備をしっかりと行い栽培のポイントを押さえ、品質のよいニンジンの継続的な出荷を目指しましょう。  
**豊作は「土づくり」から**

ニンジンの栽培では畑の準備が最も重要です。排水性の悪い畑では、短根やまた根、根部病害が多く発生し、保水性の悪い畑では肌のキメが粗くなり、収量が低下する場合があります。



→排水性と保水性のバランスのよい圃場をつくるのがニンジンの豊作へのポイント。

2013年直売所出荷を応援！こだわりの栽培ポイント

# ニンジン

子どもの好きな野菜ランキング第6位！  
 おいしくて、料理の色どりにもなる常備野菜

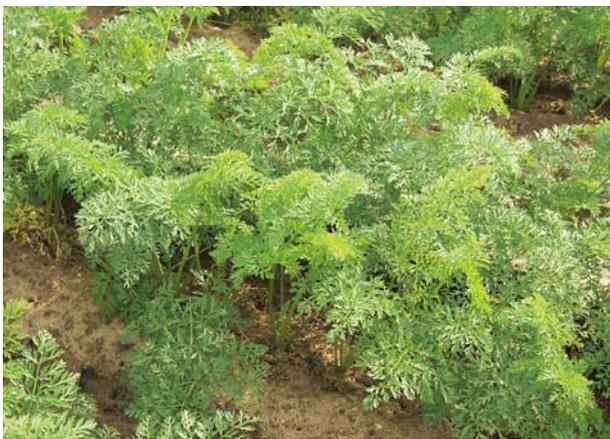
栽培には降雨時に水がたまらないような排水のよい場所を選び、保水性向上のために堆肥を入れて土とよくなじませておくことが理想です。未熟堆肥や油かすの使用、タネまき直前（1ヵ月以内）の堆肥投入は発芽障害やまた根の原因となるため注意します。タネまき直前までほかの野菜を栽培している土づくりができない場合は、前作の栽培時に堆肥などの有機物をしっかりと入れておくことよいでしょう。

### ていねいな耕起で品質アップ

ニンジンの根は繊細なため、土壌がかたくしまっていると変形や短根の原因になります。深さ20cm以上に深耕して土壌中に空気を入れ、素直な根の伸長を促します。深耕と同時に土壌pHの調整を行います。酸度はpH6.0〜6.6が適し、酸性土壌（pH5.3以下）では生育不良となります。土壌条件にもよりますが、苦土石灰10㎡当たり1kg程度を目安に施します。深耕したら元肥を入れて再度耕します。

栽培に必要な施肥量はチッソ成分で10㎡当たり150gが標準です。元肥

はそのうちの3分の2を施用し、残り本葉6枚ごろに追肥として施します。なお、苦土石灰と肥料の施用は播種の1週間前までに実施し、土になじませておきます。土を細かく耕すことが肌のきれいなニンジン作りのコツです。ていねいに耕起し、コンディショニングのよい畑を準備して品質のよいニンジンのお出荷を目指しましょう。



→深さ20cm以上に深耕し、細かく耕された土にすることで素直な根の伸長を促す。



↑寒い冬に収穫される「陽州五寸」はさらに甘みが増しておいしく仕上がる。

### 〈名品種列伝〉

秋冬どりで能力を発揮！「陽州五寸」



「陽州五寸」（1995年発表）は千葉県など冬どりにんじんの産地において、耐寒性があり病気に強く、収量性があると評価されている品種です。この品種は冬どりに栽培で大変作りやすいだけでなく、実は、収穫時期の冬の寒さにあたるとさらに甘みが増して、とてもおいしく仕上がりますので、ぜひ皆さんに食べていただきたいおすすめ品種です。なお、私達は現在、「陽州五寸」の特性を引き継いだ品種改良を行っており、後継品種として、家庭菜園や直売所出荷向けに作りやすく食べやすい「夏紅五寸」、産地向けに耐寒性を向上させた「TCH-740」などを育成しております。  
 ※「TCH-740」の一般での販売はありません。

#### ニンジン耕種基準

畝幅 (cm)	60~90
条数 (条)	2~4
株間 (cm)	8~12

※表示の耕種基準は目安としてご利用ください。

ニンジン担当

門田 伸彦

ニンジンとはさまざまな用途に利用でき、色どりや栄養価の面からも料理に欠かせない野菜で、直売所の品ぞろえにとっても重要な品目の一つです。今回は直売所出荷に向けて、色鮮やかで見栄えよく、食味にすぐれる品種をご紹介します！



色鮮やかで食味良好  
「恋ごころ」

根色が濃く陳列棚で見栄えのよい品種です。甘みがありニンジン臭が少ない良食味で、直売所出荷にうってつけです。形状は尻の先までよく詰まった肩張りのおとなしい円筒形で、根長18cm、根重200g程度によくそろいます。春のトウ立ちが遅く、夏まき・春まき兼用種です。



↑根色が鮮やかで見栄えがよく食味もよい「恋ごころ」。

機能性にすぐれる色鮮やかな  
赤ニンジン「京くれない」

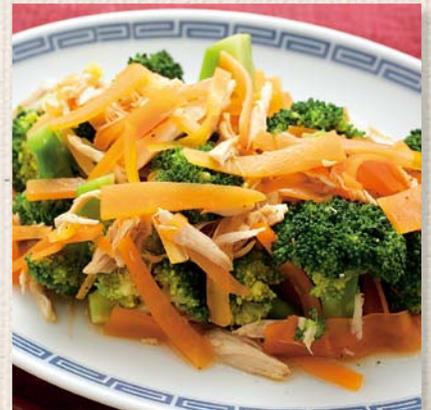
鮮やかな赤色の根色が特長で、金時ニンジンのリコピンと五寸ニンジンのカロテンの両方を、バランスよく含んでいる機能性にすぐれた品種です。根長は20～22cm程度で尻づまりのおとなしい形状です。冬の寒さにあたることで色づりがよくなるため、夏まき冬どり栽培に適します。



↑金時ニンジンのカロテンと五寸ニンジンのリコピンを共に含む赤ニンジン「京くれない」。

ボリュームたっぷり  
色鮮やか！「グランプリ」

黒田系の大型F1品種で、夏の暑さに強く、収量性に大変すぐれています。草勢が強くて作りやすく、株間を広げて疎植（8～12cm）にすれば、1本300～500gの大型ニンジンが収穫できます。根色が非常に濃く、みずみずしい肉質のためジュース加工から惣菜まで幅広い用途に向き、直売所出荷だけではなく学校給食など加工・業務用としても最適です。



↑みずみずしい肉質を生かして惣菜などの加工にも利用したい。（写真：ニンジンとブロッコリーの中華和え）



ペレット種子より水管理がしやすくなる  
生ダネでおすすめ！「夏紅五寸」

年内～冬どりのニンジンは夏の高温期の播種となるため、地表面が乾燥しやすく、発芽までの水管理がとても大変です。また、同じ根菜類のダイコンやカブと比べニンジンの種子は吸水能力が低く、発芽力が弱いといわれます。そのため、夏まきでは、播種後～発芽がそろうまで乾燥しないよう、こまめな灌水や「芽出たいシート」などの被覆資材の利用が重要となります。そのため一部の家庭菜園愛好家には「生ダネ」を利用される方がおられます。ニンジンは種子がまきやすいように、多くの品種がペレット加工されています。ペレット種子は非常に便利ですが、発芽までに生ダネより少し多くの水分が必要となります。ニンジンの栽培では発芽をそろえることがとても大切なので、発芽でよく失敗される方は、まくのに少々手間がかかりますが、生ダネの品種を利用してみるのもよいでしょう。

私のおすすめの生ダネ品種は作りやすい「夏紅五寸」です！



↑ペレット加工されていないニンジンの生ダネ（写真は「いなり五寸」種子）。



↑生ダネなので直まきで発芽しやすく、暑さ寒さに強いので作りやすい「夏紅五寸」。

包装規格 内容量 価格は2013年10月末まで有効です。



2013年直売所出荷を応援！こだわりの栽培ポイント

# サルビアコクシネア種「アカプルコ」「サクラプルコ」

サルビア担当  
ささき さとる  
笹木 悟

近年、異常気象で夏の猛暑は植物にとっても過酷な季節となっています。一般にサルビアといえはサルビア・スプレデン

ス種で、ポリウム感のある花穂と独特の緋赤色の花色が昔から親しまれ、春から秋まで楽しませてくれています。しかし、スプレデンス種は夏の高温はあまり得意ではなく、高温期の

出荷や栽培は容易ではありません。これに対してコクシネア種は清涼感ある小さな花を付け、趣ある姿は繊細な感じを受けます。外見とは裏腹に性質は丈夫

で非常に栽培しやすく、高温にも強い品目です。これまで従来品種は播種後約70日と時間がかかるため、ポットでの開花苗出荷は容易ではありませんでした。

今回紹介する「アカプルコ」「サクラプルコ」は約50日で開花する超極早生の画期的な品種で、高温にも強く育てやすいため直売所にもぴったりです。

直売所にはこの品種！  
「アカプルコ」「サクラプルコ」の品種特性

**1** 約50日で開花する超極早生種 特に長日条件となる3〜7月播種でその特性が発揮されます。最適条件下では従来品種より3週間早く開花するので、栽培期間が短く容易に取り組めます。

**2** 花付き苗出荷が可能な矮性種 開花が早いことで草丈も高くなり、最終草丈は45cm程度にまとまります。

**3** 開花が持続 開花が早いことで分枝が多くなり、花が絶えることなく咲き続けます。従来品種は側枝の開花も遅く、開花が途切れることがあります。

**4** 夏出荷が可能 3〜7月まで連続的に播種できますが、特に出荷できる品目が少なくなる夏出荷栽培がおすすです。夏バテにより回復が見込めない草花の補植用としての需要にも対応できます。

**5** 秋出荷にも対応 高温期の栽培となる秋出荷も丈夫で作りやすい性質を生かした作型となり、秋早くから出荷が可能です。気温の低下でより鮮やかな花色が霜の降りるころまで楽しめます。

## 作型

〈夏出荷〉

5〜6月播種の7〜8月出荷となります。雨よけハウス内での栽培が一般的で、特に生育後半は高温期になり、徒長しやすくなるので換気に努めます。特に発蕾後より節間が伸びやすくなるので、必要に応じて矮化剤で処理を行います。

〈秋出荷〉

7月播種の9月出荷となります。ほかの草花が作りにくい時期ですが、比較的容易に栽培できます。高温時期の栽培となり徒長しやすいため注意が必要です。換気と控えめの灌水管理がポイントになります。夏出荷と同様に、発蕾後は必要に応じて矮化剤で処理を行います。

## 栽培のポイント

### 播種

清潔で病気の心配のない用土や消毒土または市販の培土（「タキイセル培土T.M.1」）などを用い、200穴

または288穴セルトレイに播種します。種子が隠れる程度の覆土を行い、高温期となるので、用土表面が乾かないようこまめな灌水が必要です。発芽適温は18〜20℃で、高温期の播種では遮光して少しでも気温を下げてあげます。発芽がそろったところから液肥を週1回の割合で与えます。

### ポット上げ

播種後25日程度、本葉2枚ごろに9cmまたは10・5cmポットに鉢上げします。高温期は徒長が早く、元肥としてロングなどの小粒の緩効性肥料を用土1ℓ当たりチッソ成分で300〜400ppm混和し、あらかじめ湿らせた用土に、根鉢を崩さないように植え付け、軽く灌水します。

### 栽培管理

全般的に乾燥ぎみで管理し、十分に換気して徒長を防ぎます。特に病気の心配はありませんが、害虫としてはヨトウムシ、アブラムシ、オンシツコナジラミ、ハダニに注意し、早期防除に努めます。ハウスに防虫ネットをかけることによって害虫の飛来を防ぎ、防除回数

# サルビア 「アカプルコ」「サクラプルコ」

草花 サルビア



「アカプルコ」は、草丈45cm程度の矮性種で、分枝性にすぐれる。性質が強健で春から晩秋まで咲き続ける。



「サクラプルコ」は、「アカプルコ」と同様に超極早生で開花苗出荷が可能な淡桃色の品種。

## 「アカプルコ」「サクラプルコ」の適作型

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春出荷			●	▲	■							
夏出荷				●	▲	■						
秋出荷							●	▲	■			

● 播種 ▲ ポット上げ ■ 出荷期



← 従来種との生育の比較（「アカプルコ」(左)、従来種(右)）。

も減らせます。出荷は花穂が2〜3輪開花したところを目安に行います。  
鉢花として出荷  
4号以上の鉢で1〜3株仕立ての半完成品としても出荷可能です。1株仕立ての場合は発蕾時に摘芯をして側枝を出させます。複数の花穂を開花させてボリューム感をもたせることで直売所が華やかになり、見本鉢の役目も果たしてくれます。ケイトウなどで行われている多粒まき栽培も可能で、4〜5号鉢に10粒程度を直まきするのもおすすめです。

サルビア  
アカプルコ

品名コード FSR301  
0.1ml 315円



サルビア  
サクラプルコ

品名コード FSR302  
0.1ml 315円



包装規格、内容量、価格は2013年6月末まで有効です。